

期中の評価個表

事業名	民有林直轄治山事業	事業計画期間	平成5年度～平成40年度
事業実施地区名 (都道府県名)	松川入地区(まつかわいり) (長野県)	事業実施主体	中部森林管理局 南信森林管理署
事業の概要・目的	<p>花崗岩が深層風化したマサ化地帯であり、脆弱で崩壊しやすいため、山腹崩壊が多数発生しており、長野県により治山事業が実施されてきた。昭和58、60年の台風により急速に荒廃が進み、下流の多目的ダムの松川ダムに土砂が大量に流入し、急激なダム機能の低下により市民生活への重大な悪影響が懸念された。広範囲にわたる多数の崩壊地の復旧には大規模で継続的な治山対策が必要なことから、長野県及び地元からの強い要請も踏まえ、平成5年度から民有林直轄治山事業として、本事業に着手した。</p> <p>主な事業内容： 山腹工 241.73ha 溪間工 182基 治山運搬路 20.0km</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>本事業の採択当時においては事業評価制度が導入されておらず費用対効果分析を行っていないが、現時点における費用対効果分析結果は以下のとおりである。</p> <p>総費用(C) 21,160,173千円 総便益(B) 67,308,208千円 分析結果(B/C) 3.18</p>		
森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	<p>地形は急峻で、領家帯伊奈川花崗岩の脆弱な地質で表土が浅く、著しく崩壊しやすいため、豪雨等により山腹崩壊が発生、下流に土砂が流出している。その他の社会経済情勢については特段の変化はない。</p> <p>保全対象：人家2戸 松川ダム(給水戸数3万戸、灌漑面積1千ha) 県道 林道</p>		
事業の進捗状況	<p>溪流荒廃地については、溪間工により溪床の縦横侵食の防止、山脚の固定を図り、山腹崩壊地については土砂生産防止及び森林基盤回復のため山腹工を実施する。平成15年度の進捗率は23%(事業費)の見込みである。</p>		
関連事業の整備状況	<p>異常堆砂対策の松川ダム再開事業として、本事業の外、下流において砂防事業が実施されており、砂防調整会議を行う等、事業の調整を行い、より効果的・効率的な事業が行われるよう努めている。</p>		
地元(受益者、地方公共団体等)の意向	<p>松川入地区は、当市上水道(給水人口54,910人)の重要な水源地であることから、水源かん養のため、より一層、復旧治山事業の推進を要望する。(飯田市)</p> <p>脆弱な地質、急峻な地形により山地の荒廃が激しい地区であり、また、飯田市の水源地となっている松川ダムが下流にあるため、林地の保全は民生安定上極めて重要であることから、今後も事業の推進を要望する。(長野県)</p>		
事業コスト縮減等の可能性	<p>山腹工において、現地発生材や間伐材の利用、軽量資材、簡易な二次製品の採用等を行っており、今後も一層のコスト縮減に努める。</p>		
代替案の実現可能性	<p>該当なし</p>		
第三者委員会の意見	<p>荒廃地の多い松川入地区では、土砂流出をおさえるため早急に裸地をなくすことが必要である。また、自然林の回復を行うため、環境に調和した工種工法の採用に努めること。事業期間が長いので社会経済情勢の変化や施工効果に対応して事業を進められたい。</p> <p>脆弱な地質の地域であり、民生安定上からも事業の継続実施が妥当と考える。</p>		
評価結果及び実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 崩壊地の発生拡大で土砂が流出し、下流の上水道施設の被災や多目的ダム異常堆砂が深刻なため、事業実施の必要性は認められる。 ・有効性： 事業の実施により、牧小谷沢と三右衛門沢では、平成12年の豪雨時にも大きな変化が見られず、土砂の流出が減少し水源かん養機能が向上。上水道施設の保全や多目的ダムの異常堆砂軽減が図られることから、有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の実施に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、事業実施に当たってもコスト縮減に努めていることから、効率性は認められる。 <p>上記～の各項目及び各観点からの評価、並びに第三者委員会の意見を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、事業の継続実施が妥当と判断される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施方針：継続 		